

らず、日本の労働問題解決の上に重大なる暗示を與へるであらうと信ずる。

希はくば、労働組合運動の先驅諸氏、労働問題に關心する識者諸氏の御批判と、御指導と、御鞭撻を賜はらんことを。

製鋼労働組合創立に至る迄

我國に於ける労働組合は、其歴史に於いても、其量よりしても、或は其質よりしても、歐米の労働組合とは比較にならない程貧弱である。而しながら、短かしとは云へ三十年の間、幾多の壓迫と迫害とに堪へ、幾多の難關を越へて大正十五年中頃には、約三十萬人の労働組合員を數へるに及んだのである。

而して近年に至つて政府も亦労働組合を公認せざるを得ない事となり、労働組合法の立案も行はれたのであるから法律となるのも餘り遠いことではあるまいと考へられる。

然し乍ら、日本の労働組合は、多くの不當なる誤解を受け来た甚だしく逆境に在るのであつ

て、資本家が是を公認し、其團體交渉權を認められたる組合は、五指を屈するに至らぬ。亦其多くは比較的小工場、或は個人経営工場に見るのであつて、我等の知る限りに於いては、大阪の川北電機會社が稍々大工場なりと云ふべき乎。

日本労働總同盟製鋼労働組合を公認したる東京製鋼株式會社は、東京に本社を有し、全國四ヶ所に工場在り、資本金壹千五拾萬圓労働者數約二千二百九十九名を數へるのである。

抑々日本労働總同盟が、友愛會と稱せし時代、深川工場に多數の組合員を有して居つたが中絶し、月島工場にも労働組合が存在した時代もあつた。而して近年に至つて、川崎工場に日本労働總同盟關東合同労働組合川崎支部の設立を見た。大正十四年十月組合員の解雇問題より紛議起り交渉數次に亘つて圓滿解決した事もあつた。而して當時より漸く労働組合運動の氣運は勃興し來り神奈川縣下に於ける我日本労働總同盟神奈川聯合會は、數多の大工場内に確固たる組合の基礎を置くに至り、且つ大労働争議もしばしば行はれたのである。

東京製鋼株式會社は、此社會的大勢が、到底阻止すべからざるものであるのみならず、反つ